

9月「文学部授業再開」阻止へ向け、7.31大衆山交を路線的対決の意識性をもって引抜け!

本日のヨイに決起されたすべてのヨウ学友諸君！ 教育大斗争を文字通り先頭に立ってヨイ抜いてきた教育大全学生評議会は、昨日の団交を、文教検査会の一般的な“話し合い”への落とし込み策をもはねのけ断然として厳密にしめいたことの成果に賛同者つつ、本日の「団交」を文字通り「戦交」としてヨイ抜くことを、まずもつて決意表明し、すべての学友諸君が我々と共に最後まで斗争することを強く訴える。

《昨日の対文部省教授会団交が明らかにしたもののは何か?》

昨日の団交において明らかとなつた文教姫公（反対派）の平均的見解は、(1)教育者は本来的に教育する義理がある、と同時に「学園の自由」を守る責務を負つてゐる、従つてロックアウト下ではやうないといふ基本的理念に立ち脚しつつ、(2)6・10の時卓との比較においてマク・24「最終決定」の段階では反対票・福田部分は全教官の40%までに増大したといふ肯定的現状説明に立ち、(3)しかしながら現実的には「廢部」になつては元も子もないとして、分析説的には「授業再開」を打ち出し、「学園の自由」を個人の「良心」へと沈潜させ、「良心」と反福田・宮島部分の量的増大を長期的にねばり強く囲つていく、その為に全學生の諸君との「話し合い」ニ一方的説得を行なつていくこと、以上の四点にまとめられるだろ。

これに対する我々は、まずや一に方法論的問題として、彼等がいかにヨイ
その結果いかに情せか変化したのかという主体的総括を一切抜きにした形で
おいて、反昌島・福田部分の増大を肯定的に評価するという思考法を批判し
ていいだ。そしてヨニに、65年日韓条約締結をマルクマールとした日帝のア
ジア侵略開始=戦后帝国主義世界体系への本格的登場に照らして国内再編成
即ち、社会主義領域においては合理化とその過程での階級運動の徹底した組
合主義・新経済主義への導きとしめを遂行しつつ、政治領域においては執行权
力を肥大化し、民主主義的諸権利・制度を形骸化せしめ、社会の競争での威
力的「三E」を無効なもの、むしろ体制の安全弁と化していった事実を鮮明
に突き出し、戦后民主主义(その大学版としての「専門の自由」「大学の自
治」)が今や全くの虚偽意識化していること、そして、そうであるが故に右
からは新右派運動につき崩され、左からはプロレタリア国际主義の思想
性をもった新左翼を領導部隊とする反戦派労働者・学生につき崩されている

ことを彼等につきつけていくにだらう。ヨミに我々は、彼らの現象的情報や分析に対して、彼らのいわ推進派の立場といふものか、基本的には政府文部省と東大・日大を頂点とする全国教育学園連盟との対抗關係、そしてそれを取り巻く諸階級諸階層の動向の中で浮上してきに佐トの「新幹線大学」の提起に直接的には突き効かされた結果であり、即自利害に基づいた移転賛成派の不安の顯現でしかねないこと、そして教官戻りの「左」への流動化は即目的な

戰線 No. 22 '69. 7. 31

教育大全學評